グループ紹介

苦しいほど喜びが…

内野走ろう会

毎週日曜日、朝七時、新大校内や五十嵐浜岸などで、寒さにもめげず走っているグループがあります。

走ることがメシより好き（？）な人達で作っている〝内野走ろう会〟のメンバーです。

この会は、昭和五十三年九月に生まれたもので、初めは、内野公民館の早朝マラソン大会に、今井さんらが参加したところ「おもしろくて、そのままやめるのがもったいない」と仲間四・五人で始め、現在までになった―とのこと。

この内野走ろう会（今井操会長、五十嵐一二）は、会員が約四十人、小さい人は小学校一年生から上は六十二歳まで、職業も学校の先生、サラリーマン、主婦とさまざま。各自年齢と体力に応じて、二㌔、三㌔、五㌔、六㌔と毎週日曜日朝七時から八時まで一時間余り走って、体を鍛えています。

私たちの日ごろの生活に潤いとゆとりを与えてくれる絵画、絵の愛好者は市民の間にも年々着実に増加しています。

透明水彩画グループ〝みずゑ〟（早川久一代表）は、そういった環境の中で、中央公民館の主催事業として、昭和五十年に発足しました。

くだものを題材にデッサンするみずゑの皆さん

絵を生活の一部に

グループ〝みずゑ〟

すっかりその魅力にとりつかれてしまいました。

現在、会員は四十人（うち女性十五人）。二十の女性から七十七歳のおじいさんまでいろんな界層の方が中央公民館に集まって絵筆を握ります。デッサンをし、絵の具を塗って毎回一枚の絵を仕上げます。

四月から十二月までは、月一回日曜日に、会員たちが〝大人の遠足〟と呼んでいる楽しい写生会があります。

五月から九月までは、月一回早起き写生会も行っています。

この会は、山田先生の持論である「生活の一部として絵を楽しく描く」ということをモットーにして和気あいあいと絵をかいています。そして、絵の題材をじっくりと見、その中に新しい発見する喜びを味わっています。

最長老の片桐寛二さん（秋葉一）は「この会に入ってはじめて絵筆を握りました。なかなかうまくなりませんが若い人と一緒になってやるのは本当に楽しいですね」と語ってくれました。

水彩画グループ〝みずゑ〟の皆さんにとって、絵は生活の中に完全にとけ込み、そして、絵からうるおいとハリをみいだしたようでした。

一方、この地区には新潟市内で唯一の「公認マラソンコース」があることも自慢の一つです。昭和五十三年八月に地区の住民や公民館職員らの熱意が実り、できたもので、内野小グラウンドから産業道路を経て潟心女子高校で折り返す、往復十㌔の日本陸連の公認コースです。オープン記念には、往年の名ランナー寺沢選手を招き、盛大に行われました。

会長の今井操さんは「みんな喜んで走り、毎日曜日が待ち遠しくてしょうがないと言っている。走るときは、苦しいけれど苦しいほど楽しみが増す。この喜びは走ってみなければわからない。運動不足の方にぜひ進めたいですね」と話してくれました。

ランニングを楽しむ内野走ろう会の皆さん

人とのふれあいが…

〝新潟の自然〟同好会

去年五月から十月まで月二回、市民教養講座「新潟の自然―その生いたちを探る―」と題して中央公民館で開かれた講座が、この講座の生みの親です。

講座では〝新潟平野の生いたち〟〝山や生物の生いたち〟などの講義のほか、〝目でみる新潟平野〟〝地学ハイキング―近郊をたずねて―〟という実地研修もありました。

「先生達の話にはロマンがあるし、実地研修ではバスに乗って信濃川沿いに走り、〝段丘〟と〝丘陵〟はどう違うのか？か。長岡の古墳発掘現場を見たりで楽しかったですよ――と話してくれたのは**大野遠雄**さん。

この講座で地学的なものに目ざめ（？）、とりつかれた二十数人が、講座終了後も、月一回、集まっています。名前はまだないそうで、いわば〝新潟の自然同好会〟といったところ。

メンバーは小学校・中学校・そして高校の先生、会社員、主婦、専門の地質屋さん――とさまざま。月一回の会では、メンバーそれぞれが興味をもって研究している〝高山植物〟〝山の噴火〟〝尾瀬の自然〟などを、各人が講師になって発表するんだそうです。

大野さんは言います―

「今までは、ただ、ぼんやりと歩いていた場所が違う意味を持ってくるんですよね。建設中のビルの石をみても、この石はどうしてできたのかな？と考えたり。歩いていても楽しいんです〟

〝ものの見方がかわってきますね。なんていったって単位が〇万年でしょ。でも、その大きな単位の研究対象がすごく小さな石だったりして……。そこが、また素晴しいと思いませんか〟そして、職場とはまた違った、いろんな人たちとのふれあいが、たまらない魅力ですね〟そして〝なんだか、ずーんと新潟が好きになっちゃった〟そうです。

〝新潟の自然〟の実地研修

地域の連帯感で再現

濁川大和神楽

毎週月曜日午後七時半になると、濁川諏訪神社から笛と太鼓のざわめきが聞こえてきます。

これは伝承芸能の一つ「濁川大和神楽」の練習によるもので、公民館も青年仲間づくり推進事業の一環として、バックアップしています。

この伝承芸能を仲間づくりに取り入れた理由として、リーダーの**近藤孝一**さんは「もともと公民館活動や伝承芸能などにいていこうと、お年寄りに秘伝を教わってきたもの。

「四㌻ものしし頭を歯でくわえて舞うには、我々年寄りではもう無理」という指導者の**大島伊佐門**さん（六十九歳）は「このかぐら舞いは、鈴舞い、剣舞い、幕舞いから成り立っており、ようやく今年から四人で舞う剣舞いができるようになり完全なものになった」――といいます。

お年寄り達が、この地区に伝わる芸能を残したいという気持と、受け継いでいこうという若者の気持の触れ合い、優雅な中にも気品があるという「大和神楽」を立派に再現させました。

この連帯感が、郷土の見直しとまちづくりにつながる一方、青少年の健全育成に役立っています。

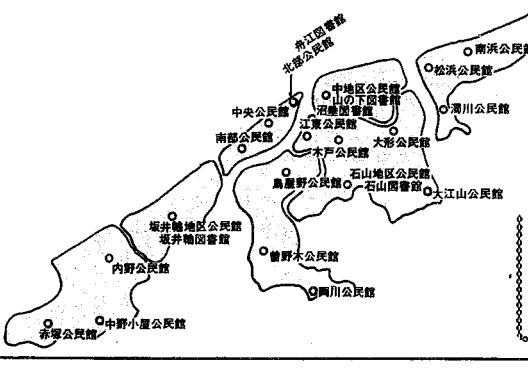
濁川公民館の話では、「指導者の大島さんが情熱家で、面倒見もよかったのでできた」――とのこと。

最後に大島さんは「ふるさとの心、昔の良さが見直されておりその気運を盛りあげたい、それには公民館活動の役割りが大きい。地域をどういう方向に進めていくかが大事」――と結んでくれました。

完全なものになった「大和神楽」の舞い

施設紹介

現在、西地区公民館（内野町）と鳥屋野地区公民館を建設中。西地区は三月末、鳥屋野地区は八月末に完成する予定です。



館名	所在地	電話	館名	所在地	電話
中央公民館	西堀通6	23―7070	曽野木公民館	天野1045	80―6810
中地区公民館	古川町4	71―0017	西川公民館	酒屋町250	80―2511
坂井輪地区公民館	寺尾上3	69―2043	松浜公民館	松浜町1	59―2721
石山地区公民館	石山669	86―5631	濁川公民館	新崎2607	59―2816
南部公民館	関屋金鉢山90	66―4939	南浜公民館	島見町2070	55―2112
北部公民館	稲荷町3490	23―0791	大形公民館	大形本町62	73―5684
辺東公民館	蒲原町7	中央公民館内(23―7070)	大江山公民館	大淵472	石山地区公民館内(86―5631)
鳥屋野公民館	堀之内32		沼垂図書館	蒲原町7	41―4111
木戸公民館	山木戸字名山	73―7550	舟江図書館	稲荷町3490	23―3235
内野公民館	内野町415	62―3111	山の下図書館	古川町4	73―0225
赤塚公民館	赤塚2280	内野公民館内(62―3111)	坂井輪図書館	寺尾上3	60―3242
中野小屋公民館	中野小屋590		石山図書館	石山669	86―5632